



「アレキサンドル・シーボルト」贈書ノ内
 奥國千八百六十六年十一月廿一日ノ詔命
 (即チ奥地利國憲法)
 但出納及監督事務規則ニ係ル

1610



114
A 4465



奧地利帝國憲法(即一千八百六十六年十一月廿一日ノ詔命)

海陸軍ヲ除クノ外諸官廳金錢出納及計算監督事務ニ係ル一千八百六十六年十一月廿一日ノ詔書

朕爰ニ大臣參議等ト協議シ計算ノ簡易迅速并財務監督ノ確實明白ナリシトテ主台トシ當分ノ中我王國ウンガルン、クロアチーン、スラフワニ、及大公國ボヘン、ビエルク、各國ノ國政并司法ニ関スル諸局ヲ除クノ外諸官廳ヲシテ悉ク次ノ規則ヲ施行セシム

第一款 上等計算監督局出納簿記局等其外ノ諸局ハ一千八百六十七年一月一日ヲ以テ廢止ノ期トス

但シ王國ウンガルン、クロアチーン、スラフワニ、及大公國ボヘン、ビエルク、各國ノ國政及司法ニ関スル諸計算局

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

大藏省

ハ此限ニ非ス

第二款 一千八百六十七年ヨリ精算事務ハ總テ其主任ノ會計
局ニ委任シ而シテ監督事務ハ上等計算監督局ノ代リニ設置シ
タル検査使第六款ニ詳ナリノ管理ニ帰セシム

第三款 總テ金錢出納ノ權ヲ有スル諸會計局ニハ金錢取扱ノ
為メ出納課ヲ置キ且ツ外ニ相当ノ人算ヨリ成立スル計算課ヲ
置キ金錢出納ノ否正ヲ監督セシメ出納課吏算ノ克ク其規則ヲ
遵奉スルヤ否ヲ視察セシメ又該局直轄ノ諸課ヨリ送達スル計算
ヲ検査改正セシメ其外金錢出納ノ施行ヲ補助セシム

諸出納課現存ノ規律ヲ皆全一ニ遵奉スルヤ否ヲ容易ニ監督セ
シ為メ該局直轄各種ノ計算ヲ一時ニ検査スルヲ緊要ト認ムル
中ハ其主任ノ首戒ハ地方廳ニ於テ施行スヘシ但シ此検査ヲ施
行セレハルニハ該省中各種計算專條ノ吏算ヨリ成總ル各種計算

專條課ヲ置キ之レヲシテ需用ニ從ヒ施行セシム可シ

古兩課 按計算課ニ各種計
算專條課ヲ云フハ會計局ノ所轄ニシテ本質ノ部分ヲ
ナスガ故ニ其事務ヲ施行スルニ必ス該局ノ名ヲ以テスヘシ

第四款 諸出納課及諸計算課其通常ノ金錢出納ハ豫算會計簿
ニ記入シ其他ノ金錢出納諸課相互ノ金錢融通日々増減スル金
錢ノ有高花金錢扱方ハ別帳ニ記載シ以テ右帳簿ヲ証書ト共ニ
主任ノ局ニ差出スヘシ

第五款 主任ノ局ハ各年ノ終リニ出納課及計算課ノ施行シタ
ル精算簿ヲ國會ノ建議ニヨリ定メラレタル計算費目ニ由リ編
製シ就中本年ノ精算簿及前年ノ決算明細簿ヲ製シ検査使ニ差
出シ以テ其検査ヲ受クヘシ検査使ハ之ヲ精算取調局花決算取
調局へ差出スベシ

第六款 検査使ハ朕ガ直轄ニシテ他省ノ管理ヲ受ケズ之ト全

等ノ位地ヲ占メ其事務章程ニ由リ全國會計監督ノ任ヲ掌ル
第七款 監督トハ唯計莫數位ノ正否ヲ検査スルノニ止マラ
ズ其尤モ緊要ナル事務ハ國家理財ノ要點ヲ經驗スルニ
在リ

故ニ全國ノ歳入歳出ヲ確定シ或ハ歳入ヲ増減スル等ノ議アル
中ハ検査使須ラク今日ノ計莫克ク現存ノ規律ニ順適スルヤ又
財政ノ主意ニ基クヤ其意ヲ述フベシ

第八款 諸官廳ノ收入及ヒ仕拂其外物品ノ出納等悉ク検査局
ノ監督ヲ受クベシ

又國家ヨリ地面ヲ賦与シ或ハ金錢ヲ交付シ以テ保護スル會社
等ノ計莫并國家ヨリ金錢ノ扶助ヲ受ケストモ官廳又ハ官吏ノ
管轄ヲ歸スル會社モ亦該局ノ検査ヲ受クヘシ

但シ會社ノ性質該局ノ監督ヲ要セザル者又ハ特別ノ條約

ニ由リ検査ヲ受クルノ義務ヲ有セザル者并諸省ノ準備金
及密事ニ關スルニ拂金ハ此限ニアラス

第九款 計莫ヲ検査スルニ際シ數位ノ誤謬又ハ金銀扱方ノ疑
フヘキ所業アルトキハ検査使直ニ計莫簿ヲ送達シタル局ニ照
會スヘシ

右ノ誤謬此方法ヲ以テ改正スル能ハス且該局ヲ管理スル省ニ
照會シ尚落着セサルキハ朕カ裁決ヲ仰クヘシ但シ財務ノ憲法
即チ國家確定シタル豫算表ノ規律ヲ遵奉セザル者アルキハ其
決算簿ヲ國會ニ出シ其處分ヲ受クベシ

第十款 検査使ハ總テ計莫方法ヲシテ検査及ヒ監督ヲ容易ニ
セシメ且ツ至当明白ナラシムルノ權ヲ有スルガ故ニ諸官廳ハ
悉ク右ニ關係スル該使ノ布達ヲ嚴ニ奉セザルベカラズ
併シ其布達會計局及ヒ之ニ屬スル諸計莫課并諸出納課ノ職務

章程ニ関スル寸ハ検査使豫ノ其本首ニ照會スヘシ
之ニ反シテ該省検査使ニ関涉スル計算方法其出納條規ヲ改革
セントスル中ハ先ツ該使ニ照會シ然ル后ニ施行スヘシ
右兩條事件ニ付キ省使一致合全セサキハ朕ノ裁決ヲ仰クヘ
シ
第十一款 検査使ハ其外各會計局計算課ノ事務ヲ施行スルニ
克ク其成規ヲ守ルヤ否ヤヲ検査セシ為メ時宜ニ依リ官吏ヲ派
出シ其実況ヲ經驗セシムルノ權ヲ有ス
右官吏ハ自ら実見シタル次第ヲ逐一長官ニ具状スベシ蓋シ若
シ事務施行中成規ニ替クテアル中ハ長官該局長官ニ照會シ以
テ其過失ヲ改メシムルノ益アレバナリ
該使ハ其他若シ金錢出入ノ確定ヲ探リ且ツ監督事務ノ主意ヲ
貫徹セシ為メ必用ト認ムル中ハ其主任ノ局ニ照會シ出納課ノ

金銀出入ヲ調査セシムルノ權ヲ有ス
又該使計算並金錢扱方ノ監督事務上必用ナル証書及ヒ金錢出
納簿ヲ一時参考ノ為メ要求スル寸ハ會計局其指揮ニ從フヘシ
第十三款 主任ノ各會計局ヨリ連年ノ終リニ検査使ニ送達ス
ル精算簿ハ本年中施行シタル收入金及仕拂金ノ扱方并本年末
ニ残存スル金額ヲ記入シ且ツ別ニ前年ノ計算ヲモ記載スルモ
ノナリ
検査使ハ右ノ精算簿ニ由リ
(イ) 本年收入金ノ總高ト仕拂金ノ總高トヲ比較シ其餘分或ハ
不足ノ生スル所以ヲ察見セシ為メ本年國家出納スル所ノ金
錢ニ付テハ精算簿ヲ編輯スヘシ若シ不足アル寸ハ如何ナル金
錢扱方ヲ為シ不足ヲ補フタルヤ且ツ何四程不足ナルヤ又若
シ餘分アル寸ハ各局ノ残金何四程次年ニ越次スルヤ詳細ニ

大 歳 省

記載スヘシ

該使ハ又此精算簿并前年ノ精算簿ニ由リ

（口）前年ノ國家金銭出納決算簿ヲ製シ其金高ト前年ノ豫算表
トラ比較スヘシ

右ノ比較ヨリ生スル金高ノ差ヲ確定シ且フ各局其豫算表
ニ從テ編輯シタル明細簿（第五款ノ）モ亦之ニ付置スヘシ

第十四款 各年ノ決算簿ハ其第二年目ノ歳内ニ於テ國會ノ檢
査ヲ受クヘシ

第十五款 検査使ハ毎年ノ終リニ其事務ノ結果ニ付キ申報ヲ
朕ニ出シ且ツ計算方法ノ改革又其他ノ改正アリシニヨリ監督
事務上緊要トナリタル事件ヲ建議スヘシ

第十六款 検査使ニ長官并其代理タル次官ヲ置キ其外大書記
官、少書記官、會計技手等数人ヲ置ク

朕ガ別ニ准許シタル検査使職制章程ハ右官吏ノ負教并接待
法其外計算課各種計算專修課官吏ノ等級及ヒ右兩課ノ遵奉
スヘキ迅速ナル計算方法ヲ記載スルモノナリ

第十七款 検査使ノ長官次官並大少書記官ハ朕自ラ官ヲ命ス
但シ次官並大少書記官ハ長官ノ推舉ニ由ル

其他該使ノ官吏ハ該使ヨリ官ヲ命ス
次官ノ官位ニ登ル者ハ會計局又ハ旧出納簿記局等ニ數年間勤
勞シ克ク其任ニ堪タル者ニ限ルベシ

大少書記官及ヒ會計吏ハ向後會計局各種ノ計算課ニ使役シタ
ル者ヨリ採用スベシ

第十八款 各會計局ハ計算課并各種計算專修課吏員ヲ採用ス
ルノ權ヲ有ス

第十九款 各省會談ヲ興シ其談事検査使ノ事務及ヒ長官ノ職

務ニ関涉スル寸ハ長官又其會談ニ出席スヘシ
第二十款 長官ハ該使ノ總事務ヲ擔當シ且ツ其責ヲ保任シ又
諸省長官ノ如ク管轄スル官吏ヲ懲戒スルノ權ヲ有ス
故ニ長官ハ五名ノ吏員ヨリ成立スル懲戒事務官ヲ置クノ權ヲ
有ス

第二十一款 検査使ノ定額金高ハ國家豫算表確定前成規ノ時
限ニ大藏卿ニ通知スヘシ

該使右定額金ニ付キ大藏省ノ承諾ヲ得ル寸ハ毎月其出納課ニ
至リ需用ニ從ヒ請取り且ツ仕拂金高ヲ年々大藏卿ニ報告スベ
シ

大藏卿査計ノ上又之ヲ検査使ニ送達シ整頓セシメ以テ大藏省
ノ報告セル年表ノ中ニ記入スベシ

第二十二款 ウシガルシクロフチーンズイーベユルケン 各國ノ國政

及ヒ司法并全國海陸軍ノ計算并監督ハ前ニ記載スル規則ヲ以
テ施用シ能ハザルコトアルガ故ニ検査使旧上等計算監督局并旧
出納記簿局等其外總テ廢止セラレタル諸局ガ曾テ施用シタル
規則ヲモ兼用スヘシ

第二十三款 曾テ布達シタル諸規則并心得方總テ此規則トテ
備スルモノハ悉ク廢止ス

一千八百六十六年

十一月二十八日

煥帝 フランツヨーセフ

検査使事務章程

○事務ノ区分

第一款 検査使諸事務ハ其性質ノ異全ニ從ヒ或ハ直ニ長官ニ
擔任シ總テ其指揮決議ニ委レ或ハ各検査課ニ區別シ長官ノ監
督ニ任カス

第二款 事務ヲ各検査課ニ区分スルニ專ラ現存費用ノ種數ニ
注意シ各課至当ノ職務ヲ掌リ又古諸課ヲ合一スルニ差問ナキ
様方法ヲ定ムヘシ

○長官ノ職掌

第三款 長官ノ擔任スヘキ職掌ハ

第一 事務ノ性質嚴重ノ隱秘ヲ要スルモノ其長官自ラ巳ノ職
掌ト認ムル事件

第二 大藏省出納本局金錢扱方ノ監督其未決國債ニ関スル款

省ノ財務ヲ監督スルヲ

第三 會計諸局高貴官吏ノ懲戒ニ関スル事件

第四 會計諸局俊秀官吏受分ノ伺

長官ハ右事件ヲ已ノ意見ヲ以テ決断シ其責ヲ保任スヘシ
右長官職掌外ノ事務ハ各課長々官又ハ次官ノ指揮ヲ受ケ或ハ
會議ヲ經成ハ會議ヲ經ズシテ之ヲ施行スベシ

○會議ノ事件

第四款 會議ニ係ル事件

第一 創立規則及ヒ從來ノ規則ヲ明解スルヲ監督方法ノ説明
其方法ニ涉ル規則ヲ施用スルヲ

第二 検査使ノ所置ノ諫争スルヲ

第三 法式未ク整ハテス且ハ豫算表中判然明示セサル仕拂

第四 會計諸局ノ權限ニ在ル官吏ヲ新任スルヲ皇帝ノ勅決ヲ

仰クベキ官吏ノ新任、安息祿ノ給與、賜暇并下等官吏ヲ懲
戒スルヲ

第五 計算ヲ送達スル局ト検査課ノ相合ハズ各自論ヲ主張シ
落着セサル方業并次官會議ニ出スラ至當トスル方業

○會議ヲ興スル

第五款 會議ハ定日ノ外緊要ノ事件アル寸ハ時々之ヲ興スベ
シ

會議ニ連席スル者ハ通常検査使長官、次官、大少書記官、會計吏等
ナリ

議負ニ非サル計算課長并検査課長モ亦會議ニ出席シ自ラ建議
シタル事件ニ付キ可否ヲ發言スルノ權ヲ有ス故ニ此投票ハ其
總教ノ中ニ算入ス可シ

長官不得止事故アリテ欠席スル寸ハ次官ヲ其議長トナシ且ツ

唯一二ノ要件ハ自己在席ノ時ヲ待テ決議セシムルノ權ヲ有ス
會議事件ヲ前以テ長官ニ通知セン為メ計算課長若シテ検査課長ハ
會議定日前ニ自ラ演說セントスル書類ヲ長官ニ差出スベシ

○發言ノ方法

第六款 議長ハ會議ニ出席ス諸員ヲシテ自ラ至當トスル位地
ニ並列セシメ其順序ニ從ヒ發言セシムルノ權ヲ有ス
各議員ハ自己ノ說ヲ伏藏ナク陳述スベシ
計算課書記又ハ其代理人タル官吏ハ決議ノ成績ヲ詳細ニ記載
シ且ツ清紙ニ淨寫スルヲ通常トス
各議員ハ検査課長ノ建議ト形貌上又ハ主義上相殊ナル異說ヲ
立ルヲ主トスベシ
各議員ハ検査課長ヨリノ建議書ヲ要求スルノ權ヲ有ス蓋シ該
員其建議書ヲ熟讀シ克ク其說ノ主意ヲ了解シ以テ之ニ左祖シ

或ハ自ラ異論ヲ立ルニ便ナルガ為メナリ

○決議ノ手續

第七款 勅裁ヲ仰クヘキ事件ハ勅問ノ部ニ入ルヘシ但シ投票
ノ多數ヲ以テ議院ノ說トシ其異說モ亦之ニ付シ以テ勅決ヲ請
フベシ

演說シタル事件ノ決定ハ發言ノ多數ニ由ル
議員ノ說兩黨相半スル寸ハ其決議議長ノ左祖スル說ニ從フヘ
シ

各議員ハ己ノ發言ニ由リ確定セラレタル決議ニ付キ其責ヲ保
任スヘシ議長之ニ左祖スル寸ハ亦之ヲ保任セザルベカラス
○決議ニ關スル長官ノ權利

第八款 長官若シ決議ニ同意セザル寸ハ左ノ權ヲ有ス
イ 自ラ議長トナリ議事ヲ再ヒ演說セシムルヲ

口 決議ヲ延滞シ皇帝ノ勅裁ヲ仰ク

ハ 決議ヲ延滞シテ害ヲ生シ或ハ公事ノ利害或ハ不得正事情等ニテ至急獨斷ノ所置ヲ要シ且ツ自ラ獨斷ヲ至當ト認ムル寸ハ決議ニ及シテ所置ヲ施スヲ然ル寸ハ速ニ其所置花勅裁ヲ報告スヘシ
按スルニ本文ノ如ク至急ノ獨斷ヲ要スル寸ハ処分ヲ為シ後ニ天皇陛下ニ奏上ス
ス勅裁トハ蓋シ之ヲ謂フ也

○ 次官ノ職掌

第九款 次官ハ長官ノ命ヲ受ケ検査ヲ受ケン為ノ又ハ准許ヲ得ン為ノ到達シタル方按テ検査シ之ヲ至當ト認メザルトキハ或ハ決テ長官ニ採リ或ハ會議ノ決ヲ取ル可シ
次官ノ議長タル會議ニ於テ決議其説ニ反シテ成ル寸ハ之ヲ長官ニ申報シ其所置ヲ待ツヘシ

○ 決算簿ノ扱方

第十款 連年ノ終リニ各會計局ヨリ精算簿及決算簿到達スル中ハ其中ヨリ一計算課ノ帳簿ヲ其主任ノ検査各課長ニ渡スヘシ
課長ハ附属ノ會計吏ヲシテ簿冊外部ノ正否ヲ檢セシノ過誤ヲラハ第十三款ノ條規ニ由リ改正セシムヘシ但シ精算簿及明細決算簿公正ナル中ハ該課ノ本紙ニ淨寫シ以テ精算取調局又ハ決算取調局ニ差出スベシ
精算取調局之ヲ検査シ至當ト認ムル中ハ検査課長費目ノ種類ヲ明示スヘシ之ヲ検査セン為メ主任ノ會計局ヨリ遺拂金錢ノ証書ヲ取ルヘシ
右費目ノ各種ニハ其會計局ノ明細表ヲ付シ且ツ之ニ屬スル証書領收ノ月日ヲ記シ以テ之ヲ明白ニシ又証書ヲ検査スル上席検査官ノ姓名ヲモ記入スヘシ但シ検査官ハ豫メ期セラレタル

検査ノ日限ヲ嚴ニ守ルベシ

右検査終ルルハ検査官之ヲ長官ニ差出シ検査ノ可否ヲ問フヘシ長官之ヲ可トスルハ検査官主任ノ會計局ヘ成規ノ指揮又ハ要求ヲ為スベシ

右ノ指揮ハ計算簿ヲ期日マテ送達スルニ付キ詳細ノ心得方ヲ記載シ且ツ其送達并整頓期限ノ遵奉ヲ嚴戒スルモノナリ

會計局若シ要求セラレタル証書送達ノ期日ニ後クルハ該局ニ之ヲ催促スヘシ

若シ該局故ナク期日ニ後クレ其催促ニ十分ノ返答ヲ為ス能ハス且ツ其罪該局ニ在ルハ其首ニ照會スベシ但シ其罪首ニ在ルハ該省卿ニ照會シ又時宜ニヨリ天皇陛下ニ奏問シ以テ至當ノ所置ヲ待ツヘシ

○ 費項検査上最モ注意スヘキ事件

第十一款 費目ノ種類ヲ確定スルニハ専ラ官廳事務検査ノ内正明確実ナラザル計算各課并費目ノ種類ニ注意スベシ但シ費途ヲ定ルルニハ参考及ヒ検査ノ為メ計算証書類并金錢出納簿ヲ取寄セルモ可ナリ

○ 官廳事務検査ノ方法

第十二款 豫算事務課ノ検査ハ毎年新検査官ヲシテ施行セシメ且該課事務ノ有様ヲ探討セシムヘシ

検査官ハ歸廳ノ上長官ニ自ラ検査シタル次第ヲ詳細報告スヘシ長官ハ此報告ニ付キ臨機ノ所置ヲ為スヘシ但シ其事件地方官ニ関スレハ其長官若シ省ニ関スレハ其卿ニ照會スヘシ

但シ更ニ疑フベキ事件ナキトキハ各計算課ノ費目ヲ確定シ并右検査長官ヲ選擇スルヲ以テ検査官交代ノ期ニ至不得止時ハ長官検査課長或ハ其代人ヲ右検査長官ニ命ス

ルノ權ヲ有ス

○精算簿検査ノ方法

第十三款 各局ヨリ精算簿到達スルハ検査官須ラク古簿冊
現存計算方法ノ通則ニ順適スルヤ否ヤヲ調査シ且ツ本年
中施行シタル各計算課金銭移用詳細ノ次第ヲ見覽スルニ
必用ナルモノ悉ク成規ノ通り記入サレタルヤヲ檢スヘシ

又右精算簿ハ本年花前年全種ノ精算簿ニ由リ前年ノ決算簿ヲ
編輯スル様ニ製セラレタルヤヲ査訂スヘシ

精算法式整ハサル等ノミニシテ肝要ナル精算上ニ關セサル誤
謬ハ主任ノ検査官直ニ右會計局豫算事務課長ニ照會シ右誤謬
ノ次第ヲ取調フヘシ

右誤謬ノ取調右ノ方法ニテ成ラヌ又ハ右誤謬肝要ナル全精算
ノ正否ニ關スルハ検査官或ハ其代人右ニ類スル違算ヲ取纏

ノ長官ニ出シ其許可ヲ受クヘシ

長官若シ此申立ヲ承諾セザル寸ハ會議ニ出シ投票ノ多數ニ由
リ決ヲ取ルベシ

如斯シテ漸ク確定シタル違算ハ検査課ノ本紙ニ清書シ以テ主
任ノ會計局ニ送り之ヲ改正セシムベシ

該局若シ改正ヲ拒ム寸ハ検査官今一應其之ヲ拒ム所以ヲ檢査
シ其成績ノ次第ニ由リ又之ヲ會議ニ出シ以テ處分ヲナスヘシ
但シ違算改正送達期限ノ若キハ前ニ示ス計算簿整頓送達規則
ノ通り克ク之ヲ遵奉スベシ

○計算簿ノ検査

第十四款 計算簿(計算証書并金銭出納簿)到達スル寸ハ此検査
主任ノ官吏先ツ第一諸會計局ノ金銭扱方ニ關スル所置現存ノ
規律及ヒ其主意ニ順適スルヤ又會計局ニ許可セラレタル豫算

金額定規ノ通り支用セラレタルヤヲ檢スベシ
故ニ計算簿及ヒ其証書類ヲ檢査スルニハ克ク現存ノ財政條規
ニ從ヒ博ク諸事ニ注意シ且ツ物品ノ理ヲ年ヘテ施行スベシ決
シテ唯數位ノ正否ヲ檢スルノミニ止マルベカラズ
檢査使ハ財政并國政事務ヲ以テ委任セラル、ガ故ニ現存ノ財
政條規ニ從ヒ尚オ善良ノ方法ヲ確立スルナラバ國家歲入上大
ニ増加スルコトナキヤ否ヤヲ判定スヘシ
該使ハ此外歲出ノ仕掛至當且ツ可成丈々節省ニ取扱レタルヤ
如何ノ方法ヲ用ヒシナラハ金額減少セシヤ又現存ノ方法ニヨ
リ減額ノ道アリシヤ否ヲ檢査スベシ○殊ニ歲入ハ悉ク不足ナ
ク且ツ期日ニ後クレズ各所ノ出納局ニ於テ主任ノ官吏ヨリ取
立ラレタルヤ又其取立高各所出納局ノ帳簿ニ記入且ツ精算セ
ラレタルヤヲ檢スベシ仕掛金ハ特別ニ歲出ノ部ヘ算入スベキ

^註其取立金ノ中ヨリ直ニ仕掛金ヲ引去ル等ノコトナキヤ克ク注
意スヘシ

各種ノ需用ニ確定セラレタル金額ハ決シテ悉ク之ヲ拂尽ス為
メニ定メラレタルモノニ非ス但シ國政并財政上不得止需用ヲ
仕拂ヒスルニ金錢常差間ナキ為メナルガ故ニ檢査使ハ須ラ
ク歲出ヲ檢査スルニ際シ真誠必需ノ費目ヲ詳細ニ熟知シ置キ
以テ後年ニ對シ可成丈々歲出至當ノ限制ヲ為スベシ
會計局物品買上ケノ為メ取結ヒタル條約ヲ檢査スルニ該局古
ニ關スル現存ノ規律ヲ遵奉シタルヤ又不都合且ツ國家ニ損害
ナル條約ヲ結バサルヤ又物品ヲ買上ケ或ハ支給スルニ不當ノ
價直ヲ以テセサルヤ克ク注意スベシ
會計局ハ檢査使ノ請求ニヨリ條約中取結ヒタル價直ノ參考ト
ナル証左物品ヲ送達スルノ義務ヲ有ス

到達シタル計算簿検査ノ片法式整ハラズ又ハ數位正シカラザレハ既ニ精算検査ノ片施用スル規則ニ從ヒ主任ノ會計局ハ違算ノ次第ヲ示スベシ去レ凡若シ計算方法ヨリ生シタル成績ニ由リ金錢取扱ノ改革國家ノ為ノ必用又ハ至当ナルヲ明白ナルヤハ上局省又ハ地方廳ヲシテ改革ノ必用ナル所以ヲ報セシムヘシ

但シ右ノ違算更ニ由ル所ナク全ク誤謬ナル片又ハ上局其指揮ヲ守ラサル片ハ検査使ヨリ前ニ記載スル方法按スルニ第十款ノ方法ヲ云ニ由リ処分スベシ

○各課職務ノ整頓方

第十五款 各課長ハ現存ノ法則ニ順適シ皇帝ノ勅詔ヲ遵奉シ其職務ヲ迅速確實ニ整頓シ且ツ之ヲ保任スベシ
検査及ヒ准許ヲ得シ為メ方案ノ差出方

第十六款 職務又ハ會議ニ由リ成ルトモ總テ方案ハ課長ヨリ

次官ニ出シ其検査或ハ准許ヲ受クベシ

方按ハ長官或ハ次官ノ准許ヲ得始テ施行スルヲ得ルモノトス

次官之ヲ准許スル寸ハ次官若課長其責ヲ保任スヘシ第十五款

ノ如ク

長官ハ次款ニ記載スル事件ノ外尙才准許ヲ受クベキ事務ヲ決スルノ權ヲ有ス

次官方案ヲ検査シタル寸ハ其中ニ唯「檢閱濟」又ハ各種ノ注意ヲ記入スベシ

○長官ノ准許ヲ受クベキ事件

第十七款 長官ノ准許ヲ受クヘキ事件ハ其自ラ之ヲ定ムルモノナリ但シ次ノ事件之ニ相當ス

第一 奏問スベキ官吏ノ建議

第二 詰勅ノ記簿ヲ以テ下付セラレタル勅問ノ整頓

第三 官吏ノ進退并懲戒事務

第四 長官ノ議長タル會議ニ定リタル決議

第五 決議ヲ採用セス長官ノ意見ニ由リ整頓シタル事件

第六 立法及ヒ其方法ニ關スル事件

第七 次官ノ承服セザル決議ニ由リ成リタル方案

勅問ノ取扱方

第十八款 天皇陛下ヨリ検査使へ勅問ノ事件ハ格別ニ注意貴重スベシ

勅問ノ事件ハ丁寧ニ經驗シ成ル丈ケ速ニ十分ノ答議ヲナシ又ハ別ニ答問ヲナスベシ

右勅問ノ事件ハ平生検査又ハ検査嚴守ノ為メ會計局等へ達セラレ、勅語ト區別シ之ヲ方案ノ部ニ保存シ若シ其事件ヲ同等

ノ官廳ト協議シ又ハ之ガ為メ建議ヲ為スルハ勅問ヲ之ニ附加スヘシ

○長官ノ保任

第十九款 長官ノ保任スベキ事件

イ 検査使事務取扱ノ有様

ロ 長官ニ委任セラレタル職務章程并職務上ノ權利ヲ勉勵且ツ至當ニ施用スル

ハ 長官自ラ施行シタル或ハ施行セシメタル決議并所置○此責任ハ事件ヲ決スルニ會議ヲ興サ、ルトニ係ラス又其決議或ハ其所置會議ノ結果ヨリ出ツルト出テヤルトニ關セズ皆長官ノ與カル所ナリ但シ會議ノ決議ニ成ルモノハ独リ長官ノ之ヲ保任スルニ非ラス其決議ニ全意スル課長并議員皆其責ヲ受ザルベカラス

第二十款 長官ハ第十九款ノ責任ヲ注意シ又天皇陛下ヨリ委任セラレタル權限ニ由リ諸布告并詔書ヲ施行スヘシ
第二十一款 此事務章程ヲ施用スルニ付キ改革セザル從來ノ簿記規則ハ旧上等計算監督局ニ用ラレタル如ク亦檢査使ニ於テ施行スベシ

